

令和元年度第3回仙台市協働まちづくり推進委員会（第3期第6回） 議事録

- 日 時：令和2年3月3日（火）18:00～19:30
- 場 所：仙台市役所本庁舎2階 第四委員会室
- 出席委員：風見正三委員長、其田雅美副委員長、石塚直樹委員、伊勢みゆき委員、
大庭克己委員、佐藤亜矢子委員、島田福男委員、浜知美委員、緑上浩子委員
- 欠席委員：相馬潤子委員、西出優子委員
- 事務局：市民局長、市民局次長、協働まちづくり推進部長、市民協働推進課長、
市民活動サポートセンター副センター長、
企画係長、事業推進係長、NPO認証係長、他担当職員

○次第

1 開会

2 議事

多様な主体がつながり、協働が生み出される環境の構築にむけて

3 報告

- (1) 「市民活動や協働によるまちづくりに関する意識調査」結果概要について
- (2) その他

4 閉会

○会議内容

1 開会

[事務局（企画係長）]

それでは、令和元年度第3回仙台市協働まちづくり推進委員会を開催いたします。

議事に入ります前に、当委員会の定足数を確認させていただきます。本日は、相馬委員、西出委員から欠席のご連絡をいただいております。また、佐藤委員と石塚委員は少し遅れていらっしゃいます。現時点で11名中7名の皆様のご出席をいただいております。出席が過半数を超えておりますので、仙台市協働によるまちづくりの推進に関する条例施行規則第4条第2項の規定に基づきまして、会議は成立いたしますことをご報告申し上げます。

それでは、ここからの議事進行は風見委員長にお願いいたします。

[風見委員長]

改めまして、皆さんお疲れ様です。

第3回ということですが、本年度もいよいよこれで終わりということで、年度末の大変お忙しい中、また新型コロナウイルスで大変な状況だと思っておりますが、それぞれ体調万全で来ていただいております。ありがとうございます。

今日は市民協働の大事な話をさせていただきたいと思っておりますが、これまで成果があがってきていますので、確認をしながら次年度に向けてご意見いただければと思います。

それでは、本日の議事録署名人は、大庭委員にお願いします。

2 議事

多様な主体がつながり、協働が生み出される環境の構築にむけて

[風見委員長]

それでは、今までの議論を踏まえまして、「多様な主体がつながり、協働が生み出される環境の構築にむけて」について、事務局からご説明いただき、ご意見をいただきたいと思います。

[事務局（市民協働推進課長）]

「多様な主体がつながり、協働が生み出される環境の構築にむけて」ということで、これについては最終的には東日本大震災以降の協働の取り組みの振り返りを行い、リーフレットにまとめて情報発信をしていくということで進めていたところです。

前回11月の委員会でいただいた原案へのご意見を踏まえて、最終案をまとめましたので、その内容をご説明させていただきます。

まず資料1ですが、前回の委員会でいただいたご意見を4項目ほどあげております。市民の方にもご覧いただくということで、もう少しわかりやすい表現、デザインの工夫をし

なければいけないということ、余り聞き慣れない言葉は極力減らす、手に取りやすいデザインといったご意見をいただきました。前回の案ですと、表紙にいろいろな説明を載せていたので、デザイン上の工夫などもしながら、最終的に仕上げていければと進めてきたところでした。

また、手に取る方が協働をイメージして、活動を試してみようと思っただけのような内容にすることや、アーカイブということで、震災から10年のあゆみを伝えるということ、そして、このリーフレットに収まらない部分は、QRコードなどを使ってより詳しい内容を見ていただけるようにといったご意見を頂戴しましたので、そうしたところも含めて作ってきました。

別紙1も見ながら、ポイントをご説明します。

まず、全体及び表紙については、前回のご意見も踏まえて、説明を追加する必要があるということで、原案ではA4仕上げの二つ折りにしていましたが、B5仕上げの三つ折りに変更して情報量を増やすこととしました。

今日お示ししたものはA4仕上げの三つ折りですが、最終的にはB5仕上げの三つ折りになります。これまで作ってきた手引き、事例集と同じサイズでもありますので、同じ三つ折りにして、より情報量を入れられるようにしました。

文章表記も、前回のもので、大分硬い文章表現になっていたところがありましたので、可能な限り柔らかく、読みやすさに気をつけながら修正を加えました。

2番目として、表紙につきましては、前回まで協働の説明を表紙に記載しておりましたが、タイトルだけにして、手に取っていただきやすいような華やかなイメージをデザイナーと相談しながら作成しております。

デザイナーは、仙台市で若手のデザイナーの方々が集まるネットワークがありまして、そちらから推薦をいただいた黒川さんという市内在住の方に依頼しました。デザインのコンセプトとしては、水玉の模様の1つ1つが、地域団体や市民活動団体といった活動主体を表現しており、それが黄色い線でだんだんつながって協働の輪が広がっていくことをイメージしたものです。このデザインコンセプトは、表紙の下に説明文を入れております。

表紙を開いた右側は、協働で進める仙台のまちづくりとなっており、協働とは何かをできるだけわかりやすく説明しております。今回はこれを表紙に掲載していましたが、表紙を1枚めくった部分に移しました。なお、この下に、委員会の中でもご紹介いただいた島田委員の川平でのお取り組みをまとめ、代表的な協働の事例として掲載させていただきました。

続きまして、さらに1枚めくっていただくと、年表も含めて全体が見られるような形になりますが、左側の年表部分が、仙台市の10年間の取り組みを書いたものです。今回はこの年表と解説の対応関係をわかりやすくするようにというご意見がございましたので、年表の左側に①委員会・条例、②市の取り組み、③市民活動サポートセンターと番号を振り、年表を取り囲むように説明文をつけることで、対応関係がわかりやすくなるようデザイン

しました。なお、説明文の中の黄色いマーカーで示した部分は、年表の中にある単語と対応するもので、できるだけわかりやすく、読みやすくということで強調した部分です。

年表の上には、東日本大震災が仙台市の協働を進める上でターニングポイントになり、協働に関するコンセプトが変わってきたことを説明として入れたいということがございましたので、震災以前のものと、震災をきっかけにして始まった協働によるまちづくりについて、概要的な文章でまとめております。

そして、右側のページですが、「つながりの力で魅力あふれるまちの実現へ」というタイトルにして、風見委員長が、この2年間の委員会の中でお話されたことや、前回の委員長の講話の内容を含めて、今後にむけた取り組みについて総括的にまとめた文章を掲載させていただきました。

こちらのイラストは、緑色の部分は仙台市の形になっており、仙台のまちの中で、さまざまな方々がまちのために活動していることをイメージしております。柔らかい印象が出せるよう、イラストも工夫しております。

裏面にまいりまして、中心の部分はインフォメーションになっております。さらに詳しい内容を見ていただく際にはQRコードから飛んでいただくこともできるように、サポートセンター、協働ナビゲーションサイト、手引き・事例集について記載しております。ここからより詳しい情報を見ていただくことができるよう、入り口をつけております。以上が、最終的な取りまとめの案です。

広報につきましては、最近インターネット環境で見られる方も多くいらっしゃいますので、市で運営しております協働ナビゲーションサイトにリーフレットを掲載し、多くの方に見ただけのように仙台市のホームページや、サポートセンターホームページなど、さまざまなところにリンクを設置します。

リーフレットの配布については、今年度は限られた予算の範囲で500部ほど印刷をして、普段市民活動などをされている方がいらっしゃる施設等に配架させていただき、手に取っていただければと考えております。

また、新年度になりましたら、配架先を増やすことと、コロナウイルス関連で中止等もありますが、市民の方が参加する協働関係のイベント等での配布についても検討していきたいと考えております。

[風見委員長]

委員会の今年一番の役割が、今まで積み上げてきたものをいかに市民に広げていくかで、見開きのページにありますように、この年表ができたというのは、各委員の皆様と事務局がこれまで一生懸命頑張ってきた成果だと思えます。

改めて見てみますと、条例の改正があったり、助成制度があったり、サポセンのリニューアルがあったり、マチノワなどのイベントがあったりと、まだまだこれから広げていかなければいけないのですが、また、協働という概念についても、いまだにそれをどう考え

るかということで、見開きの折り返しのところに経緯を書いてあるわけです。今後、このリーフレットを市民の方に手を取っていただいて、最後のページのQRコードからいろいろなところにアクセスしていただき、協働まちづくりの理解が深まればと進めてきたと思います。

また、震災から10年ということもありますが、10年というのは早いもので、大変重要な時期にこの協働まちづくり推進委員会が発足したこともこれでよくわかると思います。市民協働から協働まちづくりに変革し、これから重要な時期に入るわけですが、ここまでやっとまとまったということだと思います。

リーフレットについては分科会も開いていただいて、さらに磨いていただいたと思いますので、以上のご報告について、それぞれご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。分科会に入っていた委員の方々からも補足があればお願いできればと思います。

[浜委員]

いろいろご意見をさせていただいたので、手に取ってもらいやすくなったと思います。これを協働していない人たちも含め、いろいろな人に手に取って見ていただきたいという思いでいっぱいです。やはり、手に取るということももちろんですし、ネットの時代なので、ネットで発信しなければと思います。

[風見委員長]

手に取りやすいものができたと思いますが、それをまた今後どのように広げていくかを考えていかなければいけないですね。

[伊勢委員]

とても見やすく、カラフルで、内容もすっと入るレイアウトだと思いましたが、気になった点を2つよろしいでしょうか。

まず1つ目は、表記の仕方です。表紙には「手を取り合い豊かさを実感できるまちを目指して」と書いてありますが、開いたときに、協働で進める仙台のまちづくりのページには、仙台市では、「持続可能な誰もが心豊かに暮らし続けることができるまちの実現を目指して」となっています。まちを目指しての部分の表現が異なっているのは、あえてなのかという点が気になりました。

2点目は、このリーフレットの表記は何かを基準に統一していると思いますが、漢字と平仮名のどちらも使っている単語がいくつかあったので、統一していただいたほうが良いと思いました。

例えば、「行っています」は、ほとんど平仮名で書いてありますが、風見委員長名の文章は漢字になっています。「まち」も漢字の「街」を使っているところがあります。

また、協働で進める仙台のまちづくりのページで、協働でどんなことができるの？の部分に高齢者の見守り・「支えあい」とあります。ほかは「合い」が漢字ですが、ここは平仮名になっていたの、表記は合わせたほうが良いと思いました。

[風見委員長]

事務局はいかがですか。

[事務局（市民協働推進課長）]

漢字と平仮名の使い分けについては、チェックが至らなかった部分でして、最終的には整えます。ご指摘ありがとうございました。

1点目の表紙の「手を取り合い豊かさを実感できる」という部分と、開いたページの、「心豊かに」については、作成時にも悩んだ部分です。余りいろいろなところに同じような表現が出てきてしまうと単調になることもあり、似た表現ですが、場面、場面で趣旨は同じでもできるだけ単調にならないよう書き方をあえて変えた部分ではあります。それが読む方によって違和感があるとすると、少し考えなければならないと思いますが、作成のときにはそういう意図がありました。

[伊勢委員]

ここは、どんなまちを仙台市が目指すかという大事なビジョンの部分になると思いますので、その表現が変わるのは、一市民としてどう捉えたらいいのかと思いました。一番大事にしたい部分が表にくるといいと感じます。

[風見委員長]

全体の統一と言葉の絞り込みはまだ時間があると思いますので、頑張ってくださいと思います。どの表現にするのかという議論はいいですか。表紙も全体も、事務局や分科会でいろいろ出たものをまとめていただいたと思いますので、それについてご意見があればお願いします。

[浜委員]

表紙については私が意見したものです。なぜかという、協働が何なのかという疑問が、やはりずっとついて回ると思ったからです。そこで、協働って何だろうと思ったときに、表紙に文章を入れたほうが良いと意見をさせていただきました。ですので、ページごとに表現が一緒でも違ってどちらでも良いと思いますが、仙台市が目指すまちをここに入れるのか、協働が何なのかをここに入れるのかの違いだと思います。

[佐藤委員]

この表紙を見て、カラフルな円の説明は伝わりましたが、開いたページの5つの円の色と、表紙の丸の色がリンクするのであれば、黄色のつながりは全部水色の企業とつながっていて、ピンクの市民活動団体はつながりが少ないようです。そこまで考えていないかもしれませんが、そのバランスにも配慮するとより伝わる表紙になると思いました。

[風見委員長]

このデザインを変える案はあるかもしれませんね。よりいろいろな主体が連鎖的に融合して、本当はもっと立体的につながっているというのがあってと思います。

ほかにございますか。協働をどう定義するかについては、この協働で進める仙台のまちづくりにあるような「心豊かに暮らし続けられるまち」は、どちらかという協働によって実現すべき目標のような気がします。きっと表紙にある「手を取り合い豊かさを実感できるまちを目指して」という表現が協働の意味に近いのでしょうか。このあたりは整理する必要があります。同じ言葉の定義がずっと出てくるよりは、その趣旨に合言葉を使い分けられればいいと思います。そのあたりは推敲していただければと思います。何々のまちと同じくくり方をすると、違和感があるのかもしれませんが。どこを目指すとか、何のための言葉なのか、使い分けがしっかりできていないのかもしれませんが。

ただ、表紙はどうですか。この表紙の言葉は皆さん共感できますか。協働というのは、やはり完全に定義するのは難しいと思います。それぞれの定義があるので、進めていくべき理想像や、協働のプロセスがここに書かれていければいいと思うので、手に取りやすいリーフレットにするには、余り難しいことは書かないほうがいいと思います。

そういう意味で、柔らかい表現でよりかみ砕く部分と、反対に、より専門的に書く部分があってもいいと思います。そのときに、余り齟齬がないようにすればいいと思います。

「心豊かに」が共通しているような気はします。ただ、それと協働がどうつながるのかということになると、協働ってどんなこと？の図の中に書かなければいけませんので、書き切れているか再確認が必要ですね。マルチステークホルダー・パートナーシップをどう分かりやすく言うかだと思います。マルチステークホルダー・パートナーシップ、マルチステークホルダー・ガバナンスなどの考え方が、この委員会で提唱してきた重要な概念だと思います。ですから、この絵も融合的につながり合って1つのものを作っていくという姿勢を示せればいいと思います。

行政が情報を持っているときに、主体的で一方的な強い立場にならないようにということも言ってきましたが、これはいわゆるパートナーシップを表わしていて、協働はお互いが1つの目標に対して主従関係ではなく、働き合うことだと思うので、その部分をどう表現するかだと思います。いかがでしょう。

[緑上委員]

表紙にある「手を取り合い」という言葉が私の中の協働のイメージとあっていて、一緒

に手をつなぎながらというイメージが出ていると思います。一緒に目指してというのも協働そのもので、すごくわかりやすい表現だと思いました。

中面の「心豊かに暮らし続けられるまち」は似たような表現ですが、違いについてそこまで深く考えるかなと思うところもあります。おそらく表紙の表現は協働というものがわかりますし、何を目指しているかもわかりやすいと思いました。ただ、この豊かさを心と取るのか、金銭、経済的と取るのか、いろいろな取り方があるとは思いますが。

[風見委員長]

うまくまとめていただいたと思います。やはり表紙は協働を優しく表現しようと検討した言葉ですから、これでいいと思います。対して見開きの図のところは目標です。どういうまちにしていくか、向かっていくプロセスが頭にあって、それが手を取り合う協働であり、それによってどういうまちをつくっていくのかを検討するのがこの委員会です。そういう協働まちづくりの目標がここに書かれているということで、若干の文字の整理をするということではいかがでしょうか。

[事務局（市民協働推進課長）]

表紙については、もともとイメージを持っていただきやすい言葉というところからスタートし、こういう案になっておりますが、例えば手を取り合いという表現を使うことでイメージしていただけるとすれば、やはり入り口としての表現はこれでいいという感じがしております。

中面では、協働を手段としてパートナーシップを進めていきたいと思います、表紙と重複しないような表現を使いながら、工夫できるといいと感じておりましたので、なお考えたいと思います。また、表紙のデザインについては、黄色でつながっているのは水色の企業が多いことを改めて知ったところですので、何か方策があるか、検討したいと思えます。

[風見委員長]

デザインの要求にこたえるのは大変だと思いますが、今日の議論をデザイナーに伝えていただくと、より良いものができるのではないのでしょうか。

また、全体を見て、見開きにもう一枚加えてすごくよくなったと思います。二つ折りだと紙面が足りないし、あまり増やしても難しいので、いいところに収まった。事務局はよく頑張ってくれたと思います。また、分科会でも十分に議論していただきました。リーフレットは、簡単なようで意外と難しいんですね。いいものができたと思います。

他に気になる点があればどうぞ。

[緑上委員]

風見委員長のコラムのイラストですが、緑の枠が仙台市というのが、言われるまで気づかなくて、そういう意図があるのであれば、せっかく楽しそうな絵なので、仙台市の形だとわかるような、例えば政宗像などのキーとなるアイコンみたいなものを配置することはできないかと思いました。

[風見委員長]

事務局どうですか。

[事務局（市民協働推進課長）]

アイコン的なものにするか、あまり説明っぽくなるのもよくないですが、デザイン上の工夫を考えてみたいと思います。

[風見委員長]

政宗像や温泉などの控え目なもので、あれっ、もしかしたらこれは仙台市なのかと知ってもらえるようなものですね。仙台市だとわかるぎりぎりのところのデザインでやっていただくといいんじゃないでしょうか。ほかにいかがでしょう。

[大庭委員]

見やすいリーフレットを目指すということで、もう少し文字のポイントを上げていただくとうすくわかりやすくなると思います。一番小さいポイントはなかなかつらいものがあります。例えば、協働で進める仙台のまちづくりのページですと、箱で囲っている部分や、島田委員の事例の色別の地域団体×教育機関という部分が読みづらいです。せめて読みづらいところはポイントを上げていただくといいと感じました。

[風見委員長]

事務局、いかがですか。

[事務局（市民協働推進課長）]

確かにご指摘のとおり、読みづらいところがあります。余白を全部埋めるとデザイン性が失われることもあると思いますので、デザイナーと相談しながら、できるだけ読みやすい大きさに改善していきたいと思います。

[風見委員長]

いろんな方に手を取っていただくために、デザインを崩さずに、文字のポイントを上げるのは難しいと思いますが、デザイナーによく相談していただければと思います。デザイ

ンの美しさはわかりますが、市民に手に取っていただくという意味で、もう少し大きいほうがいいような気はします。いかがでしょうか。

[石塚委員]

すごくいいデザインだと思いましたので、これをさらによくしていただけたらいいと思います。文字は大きくするときゅうぎゅうになると思いますので、例えばB5という話でしたが、A4にするのは可能でしょうか。

[事務局（市民協働推進課長）]

コンパクトで手に取りやすくすることと、文字を大きくすることのどちらを優先するかは、正直悩んだところですが、このサイズでなければというのはないのですが、デザイナーにも相談が必要ですし、やり方次第だと思います。

[風見委員長]

A4でもB5でもいいんですか。

[事務局（市民協働推進課長）]

単純にA4に伸ばせるデザインなのか確認が要るかと思います。今回デザインしていただくときにB5で依頼しましたので、技術的に可能かどうかデザイナーに確認が必要です。

[風見委員長]

B5をA4に変えるのはそう簡単な話ではないと思いますが、縮尺をそのまま伸ばしてやれば字も大きくなって丸くおさまりますか。A4のデザインにかえるのは、デザイナーとしては大変でしょうから、相談していただけますか。

B5にこだわった理由はありますか。

[事務局（市民協働推進課長）]

A4は一般的なサイズですが、B5のほうがよりコンパクトで手に取りやすく、開きやすさもあるというのがもともとの発想です。ただ、小さい文字が見にくいので、大きくして見やすくというご要望があるのであれば、A4で作成することも検討したいと思います。

[風見委員長]

A4が一般的な気もしますが、特にB5のシリーズで揃えるというこだわりがないのであれば、今の問題は解決するので、A4に変える可能性はあるかもしれません。拡大で済むのであれば難しい作業にならないかもしれませんが、再レイアウトになると難しいでしょう。

[浜委員]

縮尺を伸ばすだけでなく、全部変えないといけないかもしれないですね。デザイナーさんの作業代がかかる可能性もあるのではないのでしょうか。

[事務局（市民協働推進課長）]

デザイナーに確認してみて、可能であればA4に拡大することを考えてみます。

[風見委員長]

お願いします。基本的にはわかりやすくということと、先ほどの手に取りやすさということで、最終的にはA4がいいという気はします。

ほかにかがででしょうか。これで世の中に広まりますので、責任が大きいですから、今日は持ち帰っていただいて、今週いっぱいぐらいに気がついたところがあれば事務局までお伝えください。

[事務局（市民協働推進課長）]

3月中に印刷に出したいと思っておりますが、デザイナーの調整期間も必要ですので、今週中くらいにご意見をいただければと思います。

[風見委員長]

最後にもう一度見ていただいて、何か気になる点があれば。事務局での調整になると思いますが、ちょっとしたミスなどに気がつかないと、印刷してからでは遅いので、目を凝らして見ていただければと思います。

内容については、これで概ね決めていきたいと思いますが、広報の方法など、その他については資料1に戻っていただいてよろしいですか。計画では公共施設の配布に500部ですか。

[事務局（市民協働推進課長）]

年度内の予算や納期を踏まえ、まずはこの部数でと考えております。

[風見委員長]

広報は、例えば各委員の皆さんにもいろいろなイベントなどで使わせていただくことは可能ですか。

[事務局（市民協働推進課長）]

新年度に入ってからどれくらいの部数が刷れるかにもよりますが、できるだけ多くの機会でご活用いただければと思いますので、個別に対応させていただきます。

[風見委員長]

いろいろな市主催のイベントではこれをどんどん使っていただくということだと思いますが、反響が大きければ、増やしていただくこともあるかもしれません。ぜひこれが完成しましたら、広めていただくようお願いいたします。

それと、ウェブ版の PDF については、広めていただく際に SNS 等でリンクするのは構わないですよ。広報については何かアイデアがあればいただきたいと思います。

[伊勢委員]

今年度の部数がかかなり限られているので、配布先を増やすと 1 カ所の枚数が減ってしまいますが、市民センターが入っていないのは、あえて部数の関係で抜いたのでしょうか。

[事務局（市民協働推進課長）]

可能であれば、全市民センターにも配布したいのですが、初年度の 500 部ですと、各市民センターには数部程度の配布になりますので、まずは各区に 1 カ所ある中央市民センターに置かせていただいて、部数が増やせれば各市民センターにも設置することを考えておりました。

[風見委員長]

各施設ではパンフレット置き場に並ぶイメージですか。

[事務局（市民協働推進課長）]

各館に相談して、一般的なリーフレット置き場よりも目立つところに置けるようであれば、その辺りの配置の工夫などもしていきたいと思っております。

[風見委員長]

ぜひこれまでの市民協働の集大成でもありますので、遠慮なく広めていただきたいと思っております。

[伊勢委員]

中央市民センターに配布というのはわかりましたが、もし可能であれば生涯学習支援センターに置いていただけるといいと思いました。

[風見委員長]

生涯学習センターを加えることは大丈夫ですね。ほかにいかがでしょうか。

それでは、これについては今期の協働まちづくり推進委員会のとても大きな成果ですが、

それだけではなく、この10年間の成果をまとめたものとして送り出すこととなります。ありがとうございました。

3 報告

(1)「市民活動や協働によるまちづくりに関する意識調査」結果概要について

[風見委員長]

次の議題に入りたいと思います。報告事項について、事務局からお願いします。

[事務局（企画係長）]

市民活動や協働によるまちづくりに関する意識調査の結果の概要についてご報告いたします。資料2をご覧ください。別紙として1・2・3もあわせてご覧ください。

調査の実施につきましては、前回の委員会でご報告をしておりましたが、今回は市政モニターと、どなたでもご回答いただける市のホームページからのインターネットの回答、あわせて本市主催の市民活動イベントの参加者の回答という3パターンで実施し、集計しました。別紙は、その3パターンを分けたものです。

回答した方の傾向が異なったものとなりましたので、全体の回答結果もそれに応じて違いが見られました。インターネットで回答された方とイベント参加者は、比較的情報収集を積極的に行っている方が多く、市民活動や協働に関する理解が深く、関心も高い方が多いことが推測され、市政モニターの方とは少し違った回答結果の傾向が見られました。一般の市民の方の意識に最も近いのは、市政モニターの方の回答だと思われるので、資料2の主な調査結果では、市政モニターの結果を中心にまとめております。

資料では、左側の列が市政モニターに、右側は市政モニター以外のインターネットやイベント参加者の回答で、特徴的なものをまとめております。市政モニターの方の回答では、例えば④の課題、⑤の必要な支援、⑩の協働による活動に向けて必要なことにありますように、市民活動に関する情報や、活動に必要な情報、地域の課題に関する情報などについて、情報の提供が十分でない、必要であるなどの意見が多く見られました。

一方で、インターネットやイベント参加者の方の回答としては、例えば⑩の協働による活動に向けて必要なことについては、意見交換できる機会づくり、コーディネート機関があること、団体同士の交流の機会などが多くあり、実際に活動されている方々ならではの意見が多くを占めておりました。

既に活動を行っている方から市民活動の情報がまだまだ十分には届いていないという方まで、さまざまなご意見をいただきましたので、それぞれの課題を踏まえ、段階に応じた事業の検討や、推進プランのまとめに生かしてまいりたいと考えております。調査の結果概要については以上です。

[風見委員長]

以上の報告に対して何かご質問、ご意見ございますか。それぞれの意識の違いというのは当然あると思いますが、こういったさまざまな意見の収集から、これからの行動実践を進めていただきたいと思いますので、このあたりを周知しながら、今後進めていければと思います。それでは、本日の議事、報告は以上です。

先ほどのリーフレットですが、長い10年間の成果をまとめられたのは、頑張っていた委員だけではなく、これまで歴代務められた委員の方々、また事務局も含めての成果だと思います。今日までのご議論、本当にありがとうございました。これがまちに広がるということで、楽しみにしております。

それでは、今期この会が最終回となりますので、改めまして各委員の皆様から一言ずついただきたいと思います。

[石塚委員]

自分は何が役に立っているのかよくわからないというか、余力になれていないと感じながら参加させていただいていましたが、今日、協働によるまちづくり仙台のパンフレットを見せていただいて、1つ形になるものができてよかったと思います。私は分科会のメンバーでしたが、事務局の皆さんも大変だったと思います。非常にいいものができそうですし、こういったアウトプットを作った後にどう行動していくかが大事だと思いますので、来期のメンバーでそのあたりについて考えていけるといいと思いました。どうもありがとうございました。

[伊勢委員]

私もいろいろなところで、教育現場や地域づくりに関わらせていただいている、協働がやはり1つのキーワードだということをひしひしと感じています。自分も含め、一人一人がまちに対して主体的にどんな意識で関わっていくか、これからいかに自分ごとができるかが非常に重要と感じています。

議題としては終わりましたが、意識調査の報告書を見て少し気になった点が1点ありました。資料2別紙1の問18に、市民活動サポートセンターを知っていて利用したことがあるという方に、利用した理由は何かとたずねたところ、「市民活動やさまざまな団体との連携などについて相談するため」がゼロになっています。やはり協働によるまちづくりを大事にしていく仙台市であれば、相談窓口の機能を果たしているのかどうかというのは課題だと、この数字を見て感じました。私もいろいろな場面で活用させていただいて、窓口ではいろいろな意見を言いながらスタッフの方とお話ししますが、連携、協働に関しては相談していないというのが実感です。その機能を果たすために、スタッフの育成なのか、広報なのか、どういうところに力を入れていけばいいのか、次期のまちづくり推進委員会の課題の一つとして取り上げていただけるとありがたいと思います。一市民としてこれからもいろいろ活動していきたいと思います。本当にありがとうございました。

[大庭委員]

今回こういったパンフレットができ上がり、前につくっている手引き・事例集も含めて、皆さんに気軽に取り組んでいただけるようなものができましたので、これをいかに皆さんに見ていただくかが、今から大事になってくると思います。商工会議所としては、ぜひPRの部分も協力をしていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

[佐藤委員]

初心者でついていくので精一杯でしたが、一市民としての意見をお伝えする役割でこの委員会に参加するつもりで、気がついたことを発言させていただきました。自分自身も、例えば子育ての面や、防災、地域で学校を支えるなどいろいろな面で地域の中で活動していく中で、協働という意識は大切だなと思いながら、それをどう人に伝えていけばいいのかと考えるときに、この歴史を見させていただいて、こういう変遷があったんだと改めて知ることができてよかったですし、人に伝えることができるツールを作ることに関わらせていただいたのはありがたかったと思います。たくさんの人に手に取ってもらい、ここから興味を持った方がさらに深くいろいろ知りたいと思ってもらえるといいと思います。とてもかわいらしい、親しみのある、余り硬い感じではないリーフレットができて、よかったです。ありがとうございました。

[緑上委員]

私も本当にわからないまま入って、この協働という言葉は耳にはしていても、深く理解をしないままに、「一緒にやる」というくらい感覚で聞いていたもので、この委員会に参加することによって、自分が今までしてきた活動が協働の1つであったということがわかってきました。おそらくそう思わないままに活動されている市民の方もたくさんいらっしゃると思います。

市民協働は少し面倒そうと思っている方も、実際は地域でPTA活動をやっていたり、町内会に携わっていたりと、いろいろな形で協働なさっていると思います。ですから、そういう気づきができる場がこれからも必要とされるのではないかというのが、私がこの会に参加して気づいたことでした。

来年度以降もできるだけたくさんの方に、自分たちのやっていることが普通のことだけど大事なことだということをおわかってもらえるよう、展開していけたらいいと思いました。どうもありがとうございました。

[浜委員]

最初は協働がよくわからなくて、皆さんに協働って何ですかと質問し続けていましたが、実際には委員を務めてから、町内会や子供会に積極的に参加するようになり、自分が一番

変わったというのが実感です。

先日、宮城野区の区別計画を話し合うイベントのファシリテーターをさせていただいたのですが、その中で、若い方が自分が将来町内にいるという絵が想像できないと言っていたのがとても印象的でした。10代の子でしたが、仕事をしている自分や、家族を持っている自分は想像できるけれど、町内で活躍している自分が全く想像できないという話をしていて、はっとしました。このアンケートには10代の回答はあまりありませんでしたが、10代以下の若い世代が、もっと地域のことを考える仕組みづくりを仙台市はしていかなければいけないと思いましたので、この委員会に若い人を入れるのもいいですし、私もこれから市民として若い世代に協働のことを伝えていければと思いました。本当にありがとうございました。

〔島田委員〕

地域で活動する上で大変勉強になりました。地域は今急速に高齢化が進んでおりまして、役員の担い手がなかなか見つかりません。一方で、高齢化が進めば進むほど支え合いが必要になってくると思います。支えられたいけれど支えるのは、という方が最近多くなってきていますが、大学や、高校、企業などからは、地域に元気がないと大変だと、地域に対する働きかけが活発になってきています。ただ、それを受ける側の地域に元気がないといけないので、地域としても何とかしていかなければと思っています。そういう意味で、いかにしてみんなで手を取り合って地域を元気にするか、まちづくりをしていくかということのヒントがわかったような気がします。

〔其田委員〕

私は4年間務めさせていただきまして、印象に残っている取り組みがいろいろ浮かびます。例えば、直近ではリーフレットがありましたが、前期では、協働の手引き・事例集の作成や、市民活動サポートセンターの拡充など、ワーキンググループにも積極的に関わらせていただく機会をいただき、非常に学びの多い4年間だったと思います。

私の所属は大学の地域連携関係の部局ですので、本日話題に出た若者である大学生を大学の外に出して、学びの視点も持ちながら、どのように協働のまちづくりに資する活動ができるか、今後も動いていきたいと思っています。

皆さんで作ってあげてきたこのリーフレットなども含めて、ここからがスタートだと思っています。これらを外に出すこと、情報発信をしていくことが我々の非常に大事な取り組みだと思っています。ずっと続くまちづくりですので、皆さんと一緒に引き続き取り組んでいきたいと思っています。どうもありがとうございました。

〔風見委員長〕

いつも夜遅い時間に市民協働、協働まちづくりについてこれだけ活発に議論する委員会

というのはなかなかなかったのではないかと思います。

私は、この協働まちづくり推進委員会を3期預からせていただき、その前の市民公益活動促進委員会が2期で、ちょうど今期で5期10年務めました。1つの節目にこのような素晴らしいまとめができましたが、これは1つの新しい始まりだと思います。ですから、今まで作り上げてきたものをより広げることは次の委員会に委ねたいと思います。来年度は新しい体制で、また残っていただく方もいらっしゃると思いますが、ぜひこのDNAを次につないでいただきたいと思います。また、新しい体制で推進していただく様子を、今度は遠くから見ていきたいと思っています。

私も10年間で本当にたくさんのごことをしてきたなと思います。ちょうど私がこの委員に入らせていただいた頃は、奥山市長が就任してすぐの時期でしたが、その頃にせんだい・みやぎNPOセンターの理事もしていました。市民協働が大変大きな政策課題になるということで、1期は委員で入り、2期目からは委員長をさせていただいて、その後、この協働まちづくりの変換点の一番仕事の多い時期に分科会も活発にやらせていただきましたが、本当に仙台には志が高い熱い方がたくさんいらっしゃると思いました。

仙台市はかつて市民協働ではトップランナーでしたが、あつと言う間に横浜市、神戸市などいろいろなところが追いついて、周回遅れになったんじゃないかということで、これを奪回するためにやり直そうと頑張ってきたつもりです。ですから、協働まちづくり推進委員会に変えるという大きな成果を皆さんとともに残せたことは誇りに思っています。

中でも、条例改正は大変で、覚えていらっしゃる方もいると思いますが、議会でも市民協働が時代の大きな論点になりつつあった時期で、国際化に伴う市民のあり方などもあり、条例施行には大きな苦勞がありました。そのときの事務局の皆さんとは何度も戦略会議を開き、いろいろ乗り越えてきましたのでとても思い出深いです。協働まちづくりとして条例にして、委員会も変えて、先ほど其田委員からもありましたが、条例に続いて助成制度を作ったり、事例集を作ったり、サポセンもリニューアルできましたし、10年の中でやるべきことはできたと思います。これは本当に皆さんとともにやってきた成果で、皆さんに頑張っていたかなければこんなことはできなかったと思います。

また、歴代の委員を見ると、やはり仙台市にはたくさんの市民協働のプロがいらっしゃって、それだけの財産があります。歴代の委員の方々も今も実践で頑張っていたと思いますし、本年度の委員の皆様も引き続き輪を広げていっていただきたいと思っています。

また、私自身の専門でもありますが、持続可能なまちづくりという概念については、震災もあった中で市民が主体になって持続可能なまちづくりを指針として作り上げたことが大事で、十年、百年の大計になると思っています。今SDGsが中心的な政策課題になっていますが、先日、郡市長とも別の会で久しぶりにお会いできたので、協働まちづくりのことをお話ししました。協働はこれからの仙台市の中で、引き続き重要な政策課題になると思いますので、私としてはいい節目になったと思います。

今度は新しい委員会にバトンを渡させていただきますが、局長を含めて事務局には、市

民局を超えて取り組んでいただく役割があるといつも申し上げてまいりました。もちろん現実は大事にしますが、やはり理想を高く掲げてやってきたつもりです。それは皆さんとともにかなり実現できたと思いますし、事務局も本当にご苦労さまでした。いつも難題を掲げている委員長だったと思います。本当に思いは尽きませんが、ぜひ先ほどありましたように、我々委員はやはりまちにつながって、特に若い人含めて、多世代、多様なつながりをつくっていくことがこれからの大事な役割だと思います。

10年はあつと言う間でしたが、引き続き、来年も新しい体制でこのDNAを引き継いでいただければと思います。私としても節目となる期に、皆さんとご一緒できたこと本当に誇りに思っております。ありがとうございました。

[事務局（市民局長）]

こちらのメンバーでお集まりいただきご議論いただくのは、本日が最後ということで、私から一言ご挨拶を申し上げます。

皆様には長期にわたり、市民協働や市民活動についてご議論いただきましたことに感謝申し上げます。委員長には、特に長きにわたって舵取りを担っていただきました。かなり大変な舵取り役だったかとは思いますが、無事にやってこられたのは、委員長のお力の賜物と感謝申し上げます。

今期の推進委員会では、いずれくる震災10年を視野に、震災後の本市の市民協働を振り返るとともに、特に多様な主体のつながりの視点でご議論をいただきました。この場でのご議論は、非常に積極的、活発で、つつい担当としてはその気になってしまうところがありました。市民の皆様を意識調査を見ますと、協働なんて初めて聞いた単語だと書かれたり、興味のある一部の人たちの活動になっていないかなどという厳しい意見も並んでいたりというのが現実ですので、市として取り組むべきことはまだまだ多いと感じております。意見の中で、やみくもに連携・協働と言っているように感じるというようなお声も確かにありますが、担当としては、市民協働、市民協働と唱えつつ、なお頑張っていきたいと感じております。

改めまして、ご議論いただき、誠にありがとうございました。取りまとめていただいたリーフレットにつきましても、さまざまな場面で活用させていただきたいと存じます。

[風見委員長]

局長もぜひこれを広めて、つないでいただきたいと思います。

ちょうど期の変わり目ということですので、皆さんにもご挨拶いただきました。今期で交代になる方もいらっしゃいますが、残る方はぜひDNAをつないでいただいて、いろいろなメンバーがこの中に入っておられるので、歴代の委員の方を見ていただければと思いますが、本当に強いきずなになっていると思います。ぜひまちの輪、人の輪をつなげていただきたいと思います。

名残惜しいですが、以上で第 3 期仙台市協働まちづくり推進委員会を終わりにしたいと思います。皆様、活発なご議論ありがとうございました。

4 閉会

[事務局（企画係長）]

以上をもちまして、令和元年度第 3 回仙台市協働まちづくり推進委員会を閉会いたします。—了—

〈議事録署名人〉

[委員長]

風見 三

[署名人]

大庭 克己

三三三三